

孝道

Newsletter

第2号 2024年新年度号



昔から長く親しまれている格言の一つに『孝は百行の本なり』があります。『人間の行いはすべて孝に基づく』あるいは『親に孝養を尽くすということが、人間のすべての行動を正しくする大本になる』という、非常に大切な教えを示したものです。

現在、日本の社会では、この最も重要なことが忘れられつつあると思われ、これは大変

困ったことだと私は考えています。

明治になると、多くの外国人が日本に来るようになりました。その多くの外国人が日本人の家庭や家族の絆の良さや礼儀の正しさに心を打たれたのです。とりわけ、親が子供を大切にし、子供が親を大切にしている姿に驚きました。日本人ほど親への『孝行』を重んじ大切にする国民はいないと感心したのです。『孝』は、日本人の誇りであり、誉なのです。

(孝道作文選集第二集「親や祖先を大切にする『孝道』を広めましょう」より抜粋)

野口芳宏先生(孝道文化財団 名誉講師)

2月24日(土) 孝道作文選集第二集

出版記念発表会

まず溝上編集長より挨拶があり、今回の第二集には、国内外の応募作品の中から厳選された31作品のほか、前年度の入賞者や四世代家庭表彰者からのメッセージも掲載した旨の報告がありました。さらに2024年度は、大学生・一般の方も対象に加えて、新たに募集を行う旨の説明がありました。

続いて、掲載作品の中から白鳥規継君の作品など3作品の朗読がありました。続く野口先生の講演では、「第二集」の巻頭言を自ら朗読・解説して下さいました。今村政純先生からは、中国における

「孝」について、孔子など歴史上の人物から紐解き、現代における「孝」の実情まで語って頂きました。

最後に、李貴史理事長より、およそ3年余りにわたる



当財団の歩みを映像で振り返り、作文選集に作文が掲載された子供たちが、今後どのように成長し将来活躍していくかを大変楽しみにしていると語り、最後に、孝道文化の草の根運動を、これからも着実に推進していきましょうと呼びかけました。

会場では、「ハートフルコーラス」の演舞も花を添えたほか、来場者からの熱心な質問も出るなど、孝道の草の根運動の機運が大いに盛り上がりいました。（報告：刀祢）



孝道実践 ボランティア

埼玉県比企郡小川町へGO！

3月30日(土)、第3回孝道ボランティアとして、埼玉県比企郡小川町に行きました。今回は、当財団がお世話になっている岡光様のところで、農業活動支援などの地域復興活動をしました。空き家の整理整頓、畑作支援、憩いの場としての池の造成などに携わった後、近くの玉川温泉で汗を流しました。今後も、被災地のため、地域のためにボランティア活動を続けてまいります。(報告:前崎)



実際に「為に生きる」哲学を実践する事で、初めて全てが定着していくと思いました。是非、たくさんの子供たちに参加してもらい、お米や野菜の出来る過程を学んで頂き、真の食育を伝えたいと思いました。川端君が最後まで火の当番に責任を持って、豚汁を完成させた姿が一番印象に残りました。(男性)



美味しかったです♡

火の当番に感謝！



玉川
温泉

息子は自ら進んでやる姿を見せ、普段家でやらないことをどうして出来るのでしょうか？生き生きする息子がみんなから功労賞と言われたことが親として嬉しい限りです。(男性)

虫がいっぱい嫌だったけど、土を掘りかえしてじゃがいもを見つけるのが楽しかったです。行ってよかったです(小4女子)

虫は苦手だけど、畠仕事ができて楽しかったです(小5女子)



文帝は漢(前二〇六年～八年)の第5代皇帝で、漢を建国した劉邦の庶子(正妻以外から生まれた子)です。母の薄太后(ぼたいこ)は、母のため、食事や薬を自ら毒見してから差し上げたとの逸話が伝わっています。また常に民の幸福を第一に考え、自らは儉約に努め、国全体として農業の振興を進めため、長年の戦争で疲れ果てていた中国が、ようやく豊かで平和な時代を迎

えました。

文帝は個人として孝道を実践しただけでなく、史上初めて、儒教の教えを国の方針として取り入れ、仁政を敷くことに努力しました。儒教に基づいた法整備、孝悌(父母や年長者を敬う)思想の奨励、教育機関「太学」の拡充などを通して、儒教が長く中国の国教として用いられていく礎を築きました。こうした功績から、文帝は史書において「徳でもって民を教育感化したため、世の中は富み栄え、訴訟の裁きはわずか数百件だけで、刑罰はほとんど課されずに終わつた。何と慈しみ深いことであろう」と称えられ、中国史上の名君の一人に数えられています。(仁龍)



母に尽くす文帝の像(福建省)



えることができました。

文帝は個人として孝道を実践しただけでなく、史上初めて、儒教の教えを国の方針として取り入れ、仁政を敷くことに努力しました。儒教に基づいた法整備、孝悌(父母や年長者を敬う)思想の奨励、教育機関「太学」の拡充などを通して、儒教が長く中国の国教として用いられていく礎を築きました。こうした功績から、文帝は史書において「徳でもって民を教育感化したため、世の中は富み栄え、訴訟の裁きはわずか数百件だけで、刑罰はほとんど課されずに終わつた。何と慈しみ深いことであろう」と称えられ、中国史上の名君の一人に数えられます。(仁龍)

孝道文化財団支部の紹介

九州



九州は地理的にアジアの隣国に最も近く、古来より文化交流や交易も盛んです。アジアのエネルギーを源泉として、日本の孝道文化を九州から力強く盛り上げていきます！

2024年8月11日(日)九州作文コンクール発表会

関西



昨年初めて大阪で若者達と一緒に孝道文化の輪をスタート！親孝行作文の取り組みをキッカケに親子で共に見つめる時間が持て子供達、親御さんから感謝の声と希望溢れる感想が沢山届いています。関西パワーで楽しく、もっと仲間を増やして頑張ります！

2024年6月30日(日)大阪華人イベント

2024年7月15日(月)関西作文コンクール発表会

中部



支部長のもと5名の役員が定期的にミーティングし企画を練り、それを会員やサポート（会員の家族を含む）に提案しながら、活動を進めています。会員は、愛知・岐阜・三重・静岡・新潟など、中部の各地に散らばり、実際に会うのは年に一回程度ですが、オンラインで親交を温めています。昨年、『中部孝道交流会』もでき、輪が広がりました。

2024年9月16日(月)中部作文コンクール発表会

関東



昨年「孝道華人音楽祭」を開催。前半は華人の伝統文化である「孝」の講話、後半は二胡と楊琴の親子コラボ演奏等が行われピッタリ息の合った演奏に酔いしれた時間になりました。

2024年8月18日(日)華人音楽会

東北
北海道



昨年初めて孝道文化大会を仙台で開催し、約45名が参加しました。受賞した子供達が孝道作文を発表し、会場は大きな感動に包まれました。また4世代家庭で表彰された夫人が病気の母親へ手紙を読み、後日母親の病気が快方に向かうという奇跡も起きました。今年10月に大会を予定していますが、前回以上に多くの作品と参加者を募りたいと思います。

2024年10月初旬

東北・北海道作文コンクール発表会

神奈川



神奈川特別支部は、世界最大のチャイナタウン横浜中華街がある横浜を中心に、華人の素晴らしい伝統文化「孝道」を啓蒙する活動を行っています。著名な先生の書法講習会も行っています。

2024年5月11日(土) 書道教室

2024年10月下旬 首都圏作文コンクール発表会

茨城

2024年4月7日(日) 茨城支部創立記念集会



藤田国哲先生

(奈良県公立小学校先生)

色々な人の名前の由来が聞けて面白かったし、2つの名前を持っている人がいること(多国籍のお子さん)にびっくりしました。(小学生)



親から生まれる時の話を聞けたのもよかったです。(中学生)

子供目線でわかりやすかったです。親がよく考えて名前をつけた事がわかると、愛が伝わって良いなと思いました。(母親)

2月度は「名前の由来」をテーマにお話していただきました。参加者が前もって親から聞いた名前の由来を共有し合いました。親の愛が伝わるとしても温かいひとときになりました。以下は藤田先生からのメッセージです。

「親孝行が大事」と直接言わなくても、自分の名前に込められた意味や愛を知れば、きっと自然に、感謝と親への愛を示してくれると思いました。多国籍のルーツも名前も、誇りをもって生きていって欲しいという願いを込めて講師をさせてもらいました。

(報告: 大野)

孝道オンライン交流会とは

当財団主催「孝道作文コンクール」の優秀賞受賞者(孝道奨学生、孝道大使)を対象に定期的に開催しています。毎回、講師をお招きし、「親孝行」「夢」をテーマにした講話、あるいは講師の専門分野の講話ををしていただき、その後感想や近況の共有の時間を持っています。

孝道作文コンクール 作文募集

テーマ

「親への感謝の手紙」
「親孝行」に関すること

部門

- ①小学生の部 ②中高生の部
 - ③大学生及び一般の部
- (各部門ごとに、日本語・中国語)

↓お問合せはこちらから



孝道作文選集第二集 販売中



昨年出版した孝道作文選集が好評につき、2023年度の孝道作文コンクールの表彰作品を厳選して、第二集を出版しました。子供たちの親へ感謝、孝の心がたくさん詰まっています。

お問合せはこちらから↓



価格: 1,000円+税

Amazon、書店、当法人HPで購入できます!

サイズ: 四六判 (128mm×188mm) 128ページ

企画: 「孝道」作文選集制作委員会

編者: 一般財団法人 孝道文化財団

発行所: 株式会社 創藝社

発行元: 一般財団法人 孝道文化財団

発行日: 2024年4月1日

〒150-0043 渋谷区道玄坂2-15-1 ノア道玄坂215

TEL: 03-6455-0068

E-mail: kodobunka@gmail.com



ご意見・ご感想はこちらから↑